

令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

建設局

事務事業名	公共土木施設の整備・維持保全におけるDX推進事業		
予 算 額	15,400 千円	新規・充実・継続の別	新規
担 当 課	建設企画部監理検査課(222－3548) 土木管理部土木管理課(222－3568)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
人口減少社会において、道路、河川、公園といった公共土木施設の整備や維持保全を担う土木、造園等の技術職員の高齢化や担い手不足が課題となっている。 将来にわたり、まちづくりの基盤となるインフラ整備や維持保全を適切に行い、市民サービスを維持・向上していくため、建設分野におけるDXを加速化し、更なる業務の効率化、生産性向上を図る。			
[事業概要]			
公共土木施設の整備や維持保全に関する業務について、デジタル技術の活用を加速化し、更なる業務の効率化、生産性向上を図る。			
1 建設分野におけるDX導入による「しごとの仕方改革」の推進 建設分野における様々な業務の現状を踏まえ、業務内容に応じたデジタル技術の導入を検討し、建設分野における「しごとの仕方改革」を推進する。			
2 デジタル技術を活用した現場業務の効率化 人手と時間を要している現場調査や現場測量業務について、地形等を3Dで読み取る計測機器等を段階的に配備し、業務の効率化や生産性向上を図る。			
3 建設業特化型AIの活用 膨大な技術基準から業務内容に応じた必要な情報を速やかに確認できる「建設業特化型AI」を試行導入し、調査・設計や計画策定など、建設分野における業務の効率化や生産性向上を図る。			
4 「みつけ隊」アプリのLINE連携 平成28年度から運用開始した「みつけ隊」アプリについて、「LINE」でも通報できるシステムを構築することにより、市民の皆様にとってより扱いやすく、かつ業務の効率化に資するサービスとなるよう機能拡充を図る。			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

建設局

事務事業名	KYOTO GREEN SESSION－広がる・みどりとひとの輪－		
予 算 額	4,000 千円	新規・充実・継続の別	新規
担 当 課	みどり政策推進室(222－4114)		
[事業実施に至る経過・背景など]			
<p>令和8年4月の策定に向け、現在検討中の「京都市みどりの基本計画2026」（以下「次期計画」という。）においては、京都ならではの「地域力の発揮」や「造園力の活用」、「みどりの質の充実」、「民有地の緑化」等の推進を掲げている。</p> <p>今後、京都市におけるみどりの保全・創出をより一層図るためには、事業者等が有する質の高いみどりの取組をそれぞれ共有するとともに、みどりに関するノウハウ等を京都に関わる皆様に対し、的確に発信することが重要かつ急務となっている。</p>			
[事業概要]			
<p>今後策定予定の次期計画（2026年から10年間）推進のため、みどりの取組を展開する庭師等の造園事業者、企業、学識経験者など、みどりに造詣の深い方々が互いに学び合い、みどりの未来に向けた対話を行い、それらの結果をとりまとめ、京都に関わる皆様に、広く発信する。</p> <p>1 交流会・勉強会の開催（計4回）</p> <p>みどりの取組を展開する庭師等の造園事業者、企業、学識経験者など、みどりに造詣の深い方々が互いに学び合う場となる交流会・勉強会を開催し、みどりの保全・創出に係る手法や成果、課題等を共有するとともに、各主体間の連携や協働による取組の横展開を促進する。</p> <p>2 「KYOTO GREEN IDEA」の策定</p> <p>交流会・勉強会において共有されたみどりに関するノウハウ等を、質の高いみどりを保全・創出するためのガイドライン「KYOTO GREEN IDEA」としてとりまとめ、京都市情報館等で広く発信する。</p>			
[参 考（他都市の状況・事業効果など）]			

令和8年度京都市予算案 新規・充実等 事業概要

建設局

事務事業名	(仮称)山科駅前遊びと学びの拠点複合施設の整備・運営 事業アドバイザー業務		
予 算 額	40,200 千円 (債務負担行為設定あり)	新規・充実・継続の別	新規
担 当 課	都市整備部 市街地整備課(222－3580)		
【事業実施に至る経過・背景など】 元京都市ラクト健康・文化館をあらゆる世代が集う遊びと学びの拠点として、山科図書館の移転・機能充実と、京都市の東部地域初となる大型の子どもの屋内遊び場を中心に活用することとし、令和7年3月19日の市長記者会見で、meetus 山科-醍醐「みんなで創るまちPLAN」における具体策として発表した。 令和7年度中に、(仮称)山科駅前遊びと学びの拠点複合施設(以下「本施設」という。)の機能や概算事業費、民間活力の導入を含めた整備・運営手法などを検討し、整備構想として取りまとめる予定である。			
【事業概要】 本施設の設計・整備・管理運営を効率的に行うためには、民間のノウハウを活用することが望ましく、整備・運営手法はDBO方式(設計・整備・管理運営の一括発注方式)を導入し、今後、これらを一括で担う事業者の公募・選定・契約を行う予定である。 令和8年度は、事業者の公募・選定に向けた募集要項や契約書等の資料作成を行うこととしており、法務、技術及び金融等の高度な専門知識と実績を有するコンサルタントに技術的支援業務、いわゆるアドバイザー業務を委託(債務負担行為設定)し、meetus 山科-醍醐におけるロードマップで示している令和12年度内の活用開始を目指す。			
＜今後のスケジュール＞ 令和8年度 設計・整備・管理運営を一括で担う民間事業者の公募及び選定に向けた準備(要求水準書・実施方針の作成等) 令和9年度 民間事業者の公募・選定、契約締結 令和10～11年度 設計・施設整備 令和12年度内 施設の活用開始(予定)			
【参 考(他都市の状況・事業効果など)】			